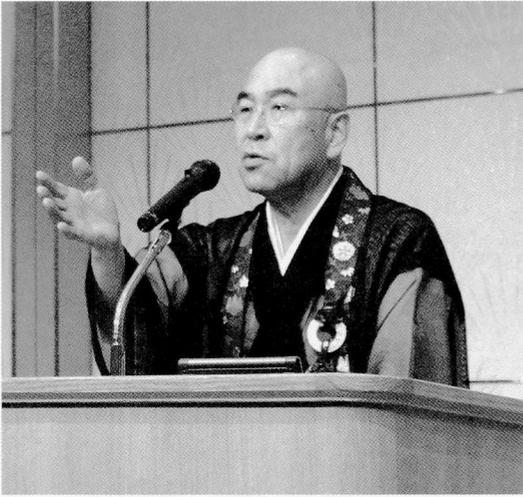


記念講演②

テーマ「これからの葬儀について」

講師 石毛泰道氏

(曹洞宗・徳雲寺住職)



講演する石毛泰道氏

葬儀を取り巻く最近の課題は、参列者の減少、

形式の変化、例えば通夜

の省略、戒名を望まないなど背景には合理性を求める社会、地縁・血縁の希薄化、核家族化、格差社会を含む経済的な事情などがあげられます。

また、今日まで伝統仏教や長い葬儀の歴史の中で、仏教界に余り変化はないだろうと思ってきましたが、ここ2、3年の間に大きな変化を感じています。最近では僧侶の仕事の減少や1日葬、直葬といった葬儀の簡略化を痛感しています。

地方のお寺では自分の子供に後を継がせることがいいのか躊躇している住職が増えていると聞きます。修行中の僧侶の間で「この先お坊さんの仕事は大丈夫なのか？」という将来を不安がる声も聞く状況です。時代は変わるものです。しかし、想像をはるかに超える早いスピードで変化が起こっており、我々も変わっていく時に来ていると思います。

ある僧侶は、葬儀が始まってすぐに参列者に向かって説法をすると言います。それは、葬儀が終わってからの説法だと、一般参列者がすぐに帰ってしまうことが多いので、普段宗教と縁がない

人たちにも、葬儀を通して宗教との接点を持つていただいて、何かを掴んで帰って欲しいからだと思います。私も宗教者も日頃の中で、宗教が身近に感じられ、興味を持つてもらえるよう努力していかねければなりません。さて、これからの葬儀

についてですが、人としてこの世に生を受け、一度きりの人生を全うした最期の儀式、それが葬儀です。最近の葬儀の風潮は、極端に費用を安価にしようとする傾向があり、それに伴い最期の花道である葬儀、つまり故人への想いも薄れていつているのではないかと懸念しています。こんな時代だからこ

そ、葬儀のメニューがご遺族の様々な要望に応えられるようもっと豊富にあつても良いのだと思います。そして、納得できる葬儀であれば、対価に見合う料金であつても良いのだと思います。そのような柔軟な発想の転換が今まさに求められています。

また、現代社会においては、問題視されている一つとして独居老人の対策があります。年々一人で自分の死を迎える独居老人が増えている状況で、2040年には高齢者の女性4人に1人、男性は5人に1人が一人暮らしになる予想されます。先ほど「メニューが豊富にあつた方が良い」と話しましたが、一方、格差社会が拡大する中、行政の施策も利用できない貧困に苦しむ老人が増えていますので、今後は身寄りがいない方でも、安心して死んでいける社会を、自治体や地域・社

会全体が作っていく必要はないと思

す。そして、葬儀業一歩先を見据えた支援共助の仕組みを構築していくことが必要と思

